市民の声を市政に

歩道について

富田（とみた） 勝（まさる）

問 県道62号深谷寄居線の歩道工事等について県の今後の計画は。

答 埼玉県に確認したところ深谷市地内の計画はありません。なお、危険な箇所等については、県に要望してまいります。

県道 62 号深谷寄居線

問 旧1市3町の通学路歩道整備率と今後の整備計画は。

答 深谷22％、岡部25％、川本29％、花園26％、平均24％です。現在進めている計画が5年後には完了し歩道率は上がりますが、計画的に上げるのは通学路の変更、用地の補償等があり難しいと考えています。

問 完全な歩道でなくても標識などによる対応は。

答 学校周辺についてはスクールゾーンとして指定していますが、ほかについては今後研究してまいります。

問 はなぞの道の駅周辺は発展著しく、通学路の歩道等を含め交通安全対策が急務と考えるが。

答 第8次深谷市交通安全計画は、平成18年度から5カ年の交通安全に関する基本的事項について定めたもので、実質的な整備箇所、年度については定めておりません。従来どおり自治会からの要望、学校・PTAとの意見を反映し、地元の優先順位、地域バランスに配慮して整備してまいります。

問 通学時間帯の交通渋滞に対する交通規制は。

答 現地を調査し、警察・PTAと協議をして最善の対策を考えていきます。

西通り線まちづくり協議会設置に向けて、その後の動向は？

栗原（くりはら） 征雄（ゆきお）

問 西通り線まちづくり協議会の第3回目の準備会開催予定について、どのようになっているのか。

答 第3回につきましては、3月26日を予定しております。現在は、開催に向けて、準備を進めております。

問 深谷市総合振興計画第4章で、都市の一体性を生む道路の整備をうたっているが、市内の各地区間を15分程度で移動できる道路づくりは西通り線が一番重要な道路だと思う。どのような整備計画を考えているのか。

答 西通り線は市の中央を通る道路となりますので、道路の重要性は大きいと考えています。整備計画は、国道17号線を境に北側を市で事業実施、南側は南通り線までの間を県が事業実施する方向で県と市で協議を進めております。

ふかや花フェスタ&オープンガーデンフェスタの開催の中で

問 メーン会場である城址公園の道路沿線にフラワーバスケットの設置を考えては。

答 フラワーバスケットによる装飾も効果的ではありますが、維持管理が難しいものです。今後は周辺住民や商店街などの賛同を得られるようになれば、いろいろな形での装飾を検討してまいります。

問 「オープンガーデン」の開催を春1回だけでなく、秋にも開催したらと思うが、今後の計画について聞きたい。

答 オープンガーデン花仲間の予定では、5月に「バラと初夏の庭」、10月には「秋の庭」の公開を予定しております。

後期高齢者医療制度について

清水（しみず） 睦（むつみ）

問 4月から制度が実施されようとしているが、被保険者に対し、詳しい制度内容の説明を市が積極的に行うべきではないか。

答 まごころ出張講座のメニューに追加してまいります。

問 病床の削減・撤廃等により入院できない高齢者が増加しつつある状態の中、市の窓口に入院相談電話の設置を行う必要があるのではないか。

答 市での対応は困難です。

問 低所得者に対して保険料の助成等補助制度の創設ができないか。

答 現時点で創設は考えていません。

同和行政の終結を

問 同和対策の特別措置法が02年3月に失効したが、本市では同和行政・同和教育を推進している。中でも、運動団体には2500万円を超える補助金が予算化されている。これは差別を温存するもので即刻廃止すべきと思うが。同和行政実施計画の有無と策定理由とあわせて聞きたい。

答 実施計画は現在もありますが、同和問題も人権行政の課題の一つと位置づけ今後5年を期間に計画を策定します。運動団体補助金の廃止は考えておりません。同和教育も人権教育の一部として実施してまいります。集会所は、広く市民に利用されるよう検討してまいります。

こども医療について

問 中学生まで年齢の拡大と窓口払い廃止はできないか。

答 拡大・廃止することは、困難な状況と考えています。

農産物のブランド化について今後の取り組みは

馬場（ばば） 茂（しげる）

答 平成13年度からJAふかやと協力し、少し贅沢深谷ネギの販売に取り組み、高級ネギとしてのブランド化に努めてまいりました。さらに17年度に「埼玉農産物ブランド化戦略会議」において、ネギ・ブロッコリー・キュウリ・トマト・スイートコーン・ニンジンの6品目が、ブランド化推進品目として選定され、19年10月と11月に埼玉農産物集中キャンペーンとして、市内道の駅や、深谷市産業祭においてPR活動を実施しました。今後も積極的に取り組みます。

問 深谷ネギの商標登録を取得しているが、どんなネギを深谷ネギと認めるのか。

答 ネギの品種・等級・農薬の管理方法などあらゆる角度から研究を重ね、深谷ネギのあるべき方向性を検討し、定義を確立し、付加価値をつけた販売ができる体制について農業者、農業団体と協力して考えていきます。

問 コスモス街道は、岡部の屋内ゲートボール場付近まで完成している。沿線の人々は「早く本庄方面への延長を」と強く望んでいるが、今後の計画を聞きたい。

答 県道として整備を進めるため、県や本庄市と都市計画決定に向けたルート検討や交通量調査を行っております。平成20年度は、県都市計画課等の関係機関と協議を進め、都市計画道路として位置づけていく予定です。広域的な幹線道路となるために県道花園本庄線のバイパスと位置づけ、今後も早期実施に向け県への要望活動を行っていきます。

コスモス街道

温暖化による当地農作物への影響は？

新井（あらい） 慎一（しんいち）

問 近年の温暖化現象により、当地農作物について、病害虫の発生や作物の成長等の点で、影響はないのか。

答 これまで日本において発生していなかった新規の病害虫が次々に発生しています。既存の農薬などでは効果が得られにくく、他者の栽培している農作物へ感染するスピードも早く、地域ぐるみの対応が必要です。中でも、東南アジアが原産とされる「ミナミキイロアザミウマ」という病害虫によって媒介される「メロン黄化えそ病（MYSV）」は、感染したメロンやキュウリの収穫量を著しく減少させ、一度感染したら、株を抜き取らなければ根絶できません。平成17年に深谷市においても病害が確認されたため、「深谷市病害虫対策会議」を設立、キュウリ栽培ハウスの全調査を実施し、指導や啓発に努めてまいりました。また、最近の暖冬化により、秋冬ネギの2～3月収穫では肥大過多の傾向にあり、品種、作型の再検討が必要ではないかと考えています。今後、市としましては、「深谷市病害虫対策協議会」や県の「気候温暖化対応農業ワーキングチーム」と連携し、一層の対策を講じてまいります。

市民の芸術・文化活動に対する支援は？

問 公募制による助成制度を創設するつもりはないか。

答 そのような制度も含め、今後、どのような方法が適正であるか、先進地の事例等調べて、研究してまいります。

〈議会あれこれ「議員も熱が入ります！」…3月議会の一般質問は3日間。延べ98人の傍聴者がありました。〉